



大地の塩

You can be the SALT of the Earth



SALT's News Letter

特定非営利活動法人
ソルト・バヤタス通信

2019年11月

Vol.

52

Contents

- 02... 夏のスタディーツアー
- 04... **E-Learning** 始動!
- 05... 読み聞かせ祭り開催
- 06... 移動式図書館
- 07... 防災ワークショップ
- 08... その他ニュース&お知らせ



夏の現地体験プログラム

181名の方に参加頂きました！

ソルト・パヤタスの事業地にお連れし、貧困問題について学んで頂く現地体験プログラム。今年の夏(7月～9月)は例年を多く上回る、181名の方にご参加を頂きました！貧困問題に関心の高い大学生を中心に、今年は特にフィリピンに在住している日本人の家族の方達のご参加も多くありました。ここで改めて、現地体験プログラムの内容について少しご紹介致します。

地域住民の生活を体感する、家庭訪問



現地体験プログラムでは、必ず家庭訪問を実施します。実際に現地住民のお家にお邪魔をしてお話を聞くことのできる貴重な機会です。参加者アンケートでも「1番印象に残ったプログラム」に選ばれることの多い、人気プログラムです。

パヤタス・カシグラハンに住んでいる人の多くは、元々は田舎暮らしです。田舎での苦しい生活、幼い頃のマニラへの出稼ぎ、マニラでの過酷な労働と生活、そして理不尽な立ち退き。それらを経て、パヤタスやカシグラハンに移り住んできています。住民の方から直接、生々しいライフストーリーを聞くことによって、貧困の原因や厳しさを学ぶことができます。最近では論文等の調査目的で、家庭訪問に参加される方も多いです。

ライフスキル教育体験 ～絵本の読み聞かせ～



カシグラハンの訪問が含まれているコースで実施をしている「絵本の読み聞かせ体験」。これは普段私たちが地域の子どもたちにライフスキル教育の一環として実施している絵本の読み聞かせを、参加者にも体験してもらおうというプログラムです。

参加者はまず「エナジャイザー」を体験します。音楽に合わせながら皆で一緒に動きをしたり、動物の鳴き真似をしたり…エナジャイザーをすることによって、子どもたちが読み聞かせに集中できるような準備を整えます。そしてその後は絵本の読み聞かせです！タガログ語なのでほとんどの参加者の方は理解が難しいでしょうが、どのようなストーリーだったかはスタッフが補足説明します。地域の子どもたちがどんなストーリーから何を学んでいるかを体験できる、参加型のプログラムです。

この他にも「現地のお仕事体験」やごみ拾いをしている現場を目の前で見学できる「ジャンクショップ訪問」、地域を練り歩いて現地の人の普段の様子を見ていただく「地域散策」が人気のプログラムです。参加者の要望に応じてオプションで「医療機関」や「学校」の訪問・見学も実施しております。このニュースレターを読んで頂いている方の中には現地に既に訪問された方も多いと思いますが、是非ご友人やお知り合いの方にもご紹介下さい！

参加者の声 ～立命館大学2年生 天見さん～

子どもから大人まで、非常に多様な層の人たちが参加しているのも私たちの現地体験プログラムの特徴かもしれません。ここでは昨年に引き続き、2回目の参加となった立命館大学2年生の天見さんの感想をご紹介します。なぜ2回目も参加しようと思ったのか、1回目との違いは何だったのか？が非常に興味深いです。

リーダーとして挑んだ2回目のフィリピン

2019年夏、ソルト・パヤタスの現地体験プログラムに参加しました。僕は2018年の夏も参加していたため今回のスタツアは1年ぶりの2回目でした。2回生として、2回目の参加者として、そして学生チームのリーダーとして、昨年と比べて自分の置かれた状況が色々変わった中でスタツアは、今振り返るととても刺激的なものでした。

2回目のツアーに参加した理由は大きく2つあります。それはチームのリーダーをしてみたいという思いと、もう一度現地を訪問したいという思いです。今回のツアーでは経験者は自分一人でした。リーダーの仕事も何もわからない状況でのスタートで当初は不安が大きかったです。メンバーのみんなのおかげもあって無事終わった事が何よりよかったです。



写真真ん中が天見さん

変わるものと変わらないもの

そして2回目の参加ということで自分には「変化」「比較」というところが大きいポイントでした。変わる場所と変わらないものが2回目の訪問によって見えた気がします。貧困問題は簡単なものではないということはわかっていましたが、思っていた以上にLIKHAや奨学生の生活の変化を感じられました。そして変わろうと動いていることが感じられて心強く思え、自分にとっての刺激にもなりました。逆に町全体の雰囲気等はそこまで変わってなくて、それは良いことであると同時に、貧困の根深さや難しさを見て取れるものであった。あと、個人的に現地の方々が覚えていてくれたことはすごく嬉しかったです。



感謝の思い

パヤタス、カシグラハン、そしてフィリピン…これらが確実に、僕にとって大きな意味を持つ場所になっているんだなあとこの感想文を書きながらふと思いました。僕に楽しさ・学び・刺激・きっかけ、たくさんのものを与えてくれる場所になっているんだなあと感じました。月並みなことしか言えませんが、より多くの方がツアーに参加してほしいと思います。

そして最後に、ソルト・パヤタスの方々、フィリピン現地の方々、一緒に行ってくれたメンバーのみんな、その他にも関わっている全ての方に感謝を伝えたいです。本当にありがとうございました。



E-Learning Project始動！！

フィリピンの教育環境を改善するための、挑戦！！

8月からカシグラハンの隣町にある私立の小学校で、小学校1年生を対象にした算数のE-Learning事業を開始致しました。本事業は日本の通信会社であるNTTコミュニケーションズさんと、E-Learning事業社であるすらネットさんとの共同事業です。共通して抱えている想いは「フィリピンの教育環境を改善して、全ての子どもたちに質の良い教育機会を」というものです。

自分のペースでできる学習

パソコンを使って学習をするE-Learningの最大の特徴は「子ども一人一人が自分の習熟度やペースに合わせた学習ができる」ことです。子どもの数が非常に多いフィリピンでは、学校や教室・先生の数が慢性的に不足しており、例えばパヤタスやカシグラハンの公立学校では1クラスで60人ほどの子どもが学んでいます。

先生がすべての子どもをフォローすることは難しく、勉強についていけなくなった子どもたちが学校を中途退学してしまうという例も残念ながら多くあります。E-Learningを導入することで、これらの問題を解決することができると私たちは考えています。



E-Learningのファシリテーター研修の様子

半年間のトライアル事業を実施中！

とはいえE-Learningを導入しようと思えば、学校側はパソコンやE-Learning用の教室を用意しなければなりません。そして生徒は月々の使用料も支払う必要があります。ですのでまず私たちは、比較的経済的に余裕のある家庭の子どもが通う私立の小学校1校を対象に、本事業を半年間トライアルで開始をしました。この半年間で実際にE-Learningの授業を受けた子どもたちにどのような変化が現れたかを確認します。そしてその結果を基にして、来年の4月以降に他の学校へ展開できるか、可能性を探っていきます。

私立学校に導入することで一定の売上・収益の確保が期待できます。その収益を活用して将来的にはパヤタスやカシグラハンの子どもたちへもE-Learningのサービスを広げていきたいと考えています。まだまだ実証実験の段階ですが、フィリピンの教育環境の改善を目指して少しずつ進んでいきたいと思っています。



パソコン上で算数の問題を解く子ども



子どもたちにマウスの使い方を教えるファシリテーター

Kwento Fiesta 2019 開催レポート

直訳すると「読み聞かせ祭り」。このイベントは読み聞かせを通して図書館のことを知ってもらい、子どもたちに本を読む楽しさを伝えるため2017年にスタートしました。3回目を迎える今年は、ソルトの学生支部である同志社大学のスタディーツアーに合わせて8/31(土)にカシグラハンで開催しました。

当日集まった子供たちは46人！！まずは参加者全員でお祈りをし、読み聞かせ前のアクティビティ「エナジIZER」をしました。音楽に合わせて皆で同じ動きをするエナジIZERで、子ども達の気持ちを読み聞かせへと高めていきます。



今回の読み聞かせで扱った本はスリッパの兄弟のお話。左のスリッパと右のスリッパは兄弟でいつも一緒にいましたがある時バラバラになってしまい、お互いを探すことになるというお話です。この話から子どもたちは、人それぞれ違いがあることを認め合うこと、家族や友達を大切にすることなどを学びました。



読み聞かせの後は子どもたちとゲームをしたり、ダンスや歌の発表会をして楽しみました。一列に並んで後ろの仲間に小麦粉を渡すゲームでは、子どもたちも粉まみれになって楽しんでいました。

ゲームに参加し、子どもたちと同じく粉まみれになっていた同志社大学の山川さんは、「子どもたちと一緒にストーリーテリングを体感できて良かったです！真っ白になりましたが、いい思い出です！ありがとうございました！」と言ってくれました。

Kwento Fiestaでは普段の図書館開放日よりも多くの子どもたちが来てくれて、まさしく「祭り」の名にふさわしい雰囲気を楽しむことができました。1年に1回の開催ですが、普段の読み聞かせも通して図書館にもっとたくさんの子供たちが足を運ぶようになり、本を読む楽しさ、本を通じた学びを伝えていけたらいいなと願っています。

移動式図書館 プロジェクト



祝！住民参加型・移動式図書館スタート！

6/23(日)リテラシークラスにもご協力を頂いていた劇団員のJKさんと一緒に、移動式図書館プロジェクトがスタートしました！移動式図書館プロジェクトでは、トライシクルというフィリピンでよくみる三輪バイクタクシーに図書館を搭載した移動式の図書館を作り、その移動式図書館でパヤタス地区内を移動しながらより多くの子どもに本を読む楽しさを伝えることを目的としています。

移動式図書館プロジェクトでは、トライシクルのデザインから本の内容まで、全てパヤタスの住民の方々が考えて形にしていきます。超・住民参加型！のプロジェクトです！！



ストーリーもデザインも自分たちで

まず初めにストーリーと移動式図書館のデザイン案を作成するためのワークショップを開催しました。参加したのは地域の子どもたちとそのお母さんたちです。まずは防災に関するワークショップをし、その後未来の移動式図書館のデザインを皆で考えました。防災に関するワークショップでは、災害についてのストーリー作成をしました。各グループに分かれてテーマごとに4コマ漫画のようなデザインでストーリー作成をしていきました。パヤタスをきれいな街に！火事とどう戦うか？…パヤタスで起きたゴミ山事故について、といったストーリーを作成しました

各チームが作成したストーリーの発表が終わった後、移動式図書館のデザインを皆で考えました！扇風機が搭載されていたり、花が植えてあったり、羽が生えていたり、図書館と併設してお店が開いていた…どのデザインにも個性があって、またデザインから子どもたちやお母さんたちの性格や普段の生活も垣間見えて、大変興味深かったです。

最終的な移動式図書館のデザインは、本日集まったデザインから最終化をしていきます。また7月には、日本の東京芸術劇場で「移動式図書館の完成モデル」とワークショップの様子が展示されました！パヤタス地域で、この移動式図書館が走る日が今から楽しみです！！



災害対策

ワークショップ



自然災害の多いパヤタス地区…

パヤタス地区は、マリキナ断層と呼ばれる活断層の真上近くに位置しています。そのためマリキナ断層によって引き起こされた大地震が発生した場合、パヤタス地域は甚大な被害を受けると言われています。またパヤタスは水害にも遭いやすい地域です。ひどい大雨が降った際には浸水することがあり、衛生環境も悪化してしまいます。

自然災害のリスクの多いパヤタス地区の住民たちに防災に関する知識を得てもらうために、防災に関するワークショップを開催しました。このワークショップは「災害に対して、私たちはどんな行動をとればいいのか？」と住民の間で考えながら進められていき、セーブ・ザ・チルドレンの元スタッフの方が進行をして下さいました。

最初に、災害に関するプレゼンテーションを見た後、「災害が発生する前・発生した後に私たちは何をすべきか？」についてディスカッションをしました。お母さん達からは「すぐに逃げられるように防災バッグを事前に用意しておく」「災害が発生した際、どこに避難するのか家族で確認しておく」といった意見が出ました。その後、グループで話し合ったことを全員の前で発表してお互いの学びを共有しました。



子どもたちもゲーム形式で学びました！

また別の日には、同じくパヤタスで子ども向けの体験型ワークショップも開催しました！この日は主に3つのプログラムを実施しました。1つ目は地震が起こった時などの様々な状況に対して、どのような行動をとればいいのかを手元のカードの中から選ぶというプログラム、2つ目は水害時の行動に関するクイズで、2つ選択肢から最適な行動を選ぶプログラム、3つ目は地震が起こった際にどのような行動を取るべきか考えるもので、テーマが出された後にチームに分かれて10秒以内に適切だと思う方法を話し合って実施をするというワークでした。

参加していた子どもたちはとても楽しんでいました！彼らの中で災害に対する意識が少しでも変わっていれば幸いです。そして今回災害に対する対策を学んだ彼らが友人や家族に伝えていってくれる事を心から望みます。



Social 留学とのコラボレーションを始めました！



株式会社コネクト&フロウさんが運営されている留学のポータルサイト「Social留学」にソルト・パヤタスも加盟をさせて頂きました！こちらでインターン・ボランティアやスタディーツアー情報を発信できる他、語学留学とソルト・パヤタスでの活動を組み合わせたプログラムなども提供されています。

また本サイトを通してフィリピン留学された場合は、その留学費の一部が加盟団体へ寄付される仕組みとなっております。興味のある方は是非「**Social留学**」で検索してみてください！

外務省主催「NGOインターン・プログラム」採択中！



外務省が「国際協力分野での就業を希望する人材の受入れと育成を NGO に委託することによって、NGO 活動に携わる人材のための門戸を広げ、人材の拡充を通じて NGO による国際協力の重層化を図ること」を目的として実施しているNGO インターン・プログラムの2019年度委託先にソルト・パヤタスが選ばれました！本助成金にて本年6月より国内スタッフとして青木を団体に迎え入れております。

青木は大学在学中よりソルト・パヤタスに関わり、学生団体や企業勤めで得た経験やスキルをソルト・パヤタスの業務に発揮をしてくれています。

「ソルト・パヤタスで現在、様々な社会問題に立ち向かう中小規模NGOの経営と組織を最適化し、より成果が出せるよう支えるコンサルタントを目指し勉強中です。世界中の人々と動物が共に生きやすい世の中へと導くことを個人のミッションとして掲げています。どうぞ、宜しくお願い致します。」